

海外展開戦略(鉄道)の概要

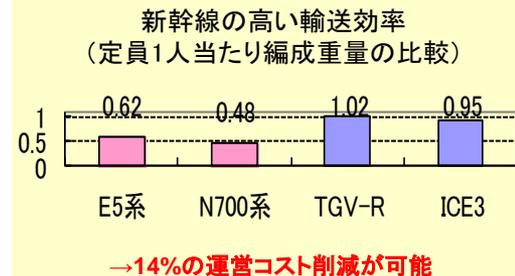
①国内・海外市場の動向

- 【国内】
- 輸送人員や車両及び車両部品の国内需要は比較的堅調であるが、今後の人口減少を見据えると大幅な需要の増加は見込めず。
- 【海外】
- アジア、西欧、北米を中心に、年間約24兆円規模の市場が存在。
 - 欧州鉄道産業連合 (UNIFE) によれば、2021年まで年率2.6%で成長する見通し。
 - 海外における事業展開を促進し、世界の増大する需要を積極的に取り込むことが重要。これにより、事業投資機会の拡大、我が国鉄道に係る技術・ノウハウの向上といった効果も期待できる。



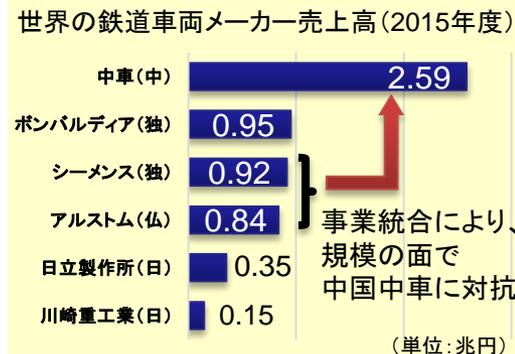
②日本の鉄道の国際競争力

- 安全性・定時性といったサービス品質の高さや、故障・欠陥の少なさ、納期遵守、低いライフサイクルコスト等に強み。
- 一方、車両、機器、設備、インフラ等の要素ごとに、ノウハウを有する主体が細分化。特に高速鉄道案件では、川上から川下までの各段階におけるとりまとめに課題。
- 増大する海外需要を取り込むためには、車両メーカーの生産能力、中でも設計能力の拡充が必要。



③競合国の動向

- 【欧州】
- ボンバルディア、アルストム、シーメンスといった総合メーカーが世界的にビジネスを展開し、圧倒的なシェア(アルストム、シーメンスの鉄道事業が経営統合)。
 - 製造、システム統合、メンテナンスまで対応できる総合力に強み。
 - 案件形成段階から総合的にコンサルティングを実施。
- 【中国】
- 国内の巨大な高速鉄道市場を背景に、世界最大の車両メーカーとして中国中車が台頭。
 - 高いコスト競争力を背景に、我が国車両メーカーと競合するケースが増加。



海外展開戦略(鉄道)の概要

④海外展開の方向性

I. 競争力強化のための方策

(1) 安全性、信頼性、ライフサイクルコスト等の我が国の強みの売り込み

- トップセールス、要人招聘、専門家派遣

(2) パッケージ型需要への対応

- 鉄道・運輸機構が高速鉄道に係るプロジェクトマネジメントに参画
- 保守・運行への参画・支援
- 駅周辺開発、駅ナカ等の提案
- M&A等による事業領域の総合化

(3) 新たな重点分野としての都市交通システム(AGT、モノレール)の売り込み

- 事業性調査支援、要人招聘、専門家派遣

(4) 総合的なファイナンスパッケージの提供

- JICA、JBIC、JOIN、NEXI等による金融支援を最大限活用した魅力あるファイナンス提案

II. 供給力確保・環境整備のための方策

(1) 案件形成段階からの参入に向けた取組

- 鉄道・運輸機構が高速鉄道に係る案件形成に参画
- スペックインの検討、必要な人材確保

(2) 案件形成段階からの官民連携による計画的な案件参画

- 協議会等を通じた官民の情報交換の促進

(3) 車両供給力の確保

- メーカー各社による設計キャパシティの拡充
- 海外向け及び国内向け車両の標準化のあり方の検討
- 相手国からの現地生産化要請への対応

(4) 鉄道の海外展開に必要な人材の確保・育成

- 新規採用、OB・外国人人材の活用による人材確保
- 研修等による人材育成

⑤注視すべき主要プロジェクト

「インフラシステム輸出戦略」及び「国土交通省インフラシステム海外展開行動計画2017」に位置づけられたプロジェクトを中心に、要員確保や車両の供給力等の観点も踏まえつつ官民で対応を協議し、着実な案件受注を図る。